

## 先進的事例（住環境整備）：地域RAや多文化共生アドバイザーによるケア体制の構築

実施機関名：関西大学

地域住民と外国人住民との社会的・心理的距離感の改善を図るため、「多文化共生アドバイザー」、「地域レジデントアシスタント」を設置し、民間住宅に散在する留学生たちと日々連絡を取り合い、交流の機会を意識的に作り出す生活環境支援を行う。



単なる宿舎物件の提供だけでは、住環境の万全なケアとはならない。地域に住む留学生は、日本人コミュニティに入ることなく、居住する地域に関する知識が不足している傾向にあり、近隣住民との無用なトラブルを起こす、あるいは地域にほぼ関与することなく修学期間を過ごすことが多い。

このような日常の社会的な距離感の解決のために、「多文化共生アドバイザー」は、主に地域RAとの連携役、各大学や地域における留学生や外国人住民の生活における諸問題の相談役としての立場を担う。

多文化共生アドバイザーの下に、日本語教師やホストファミリー等の経験に長けた、地域在住のボランティア住民が「地域RA (レジデントアシスタント)」として登録し、地域や自治体が行う交流活動などに積極的に留学生を連れ出し、また様々な相談にのることができる機会を提供する。

本学では、大学近辺において「CARESシェアハウス」を平成29年度にスタートさせた。このシェアハウスは、地域の住宅街の中に位置しており、地域RAが定期的に立ち寄り、地域で相談できる日本人住民としての役割を担う。生活の中で起きる細かな異文化接触の場面においても、住民コミュニティと外国人学生の架け橋となることが期待できる。

本事業の母体であるCARESコンソーシアムは、府や市といった地域に密着した団体が参画しており、本取組においては重要な役割を担っている。



CARESシェアハウスでも  
異文化共生アドバイジング



地域RAと  
参加する  
交流活動